

2012年

携帯サイトへGo!→
携帯で教室便りが見られます

教室だより 6月号



公文式本市場教室 火・木 3~7時 186-61-4936(上平方)

横割教室 月・水 3~7時 186-61-8891(福島方)

指導者: 新妻ゆき子 携帯090-2260-0671

Eメール:yvonne-yukiko@mbi.nifty.com

携帯アドレス:yvonne-1682-yukiko@docomo.ne.jp

ゆきこくもん

検索

ホームページ <http://www.yukiko-kumon.com>

自学習意欲を高める

軽やかな夏服に着替えて気分も新たに近ごろとなりました。6月の異称、水無月の「な」は現代の「の」にあたり、田に水を引き稲に活力を与える月であることから「水無月」となったとされています。

公文式の学習は「人から教えてもらう学習」ではなく、「自分で学ぶ学習」ですから、お子さま自身の中に活力・やる気・学習意欲がないと、なかなか学習がはかどらないことになってしまいます。公文式には、お子さまの学習意欲を高めるしくみの一つとして「すべての教材で100点が取れる」ということがあります。学習開始から間がなく、スラスラできる内容を学習中には「この内容なら100点は当たり前」と思いがちですが、ケアレスミスもなく、何枚もの教材で100点を取ることは、やさしいことではありません。ましてや教材のレベルが上がり、学年を越えた内容の教材を100点に仕上げることは、決してたやすいことではありません。

いつも自分の力で、すべての教材を100点に仕上げているお子さまのがんばりを、ぜひご家庭でもほめていただき、学習に向かう意欲を高めてあげてください。

公文式の創始者・公文 公（くもん とおる）先生の言葉より

*高校数学” がラクにできるように

よく「英語は単語の知識だけでは使える英語にならない」といいますが、その単語でも2千とか3千ではなく、5万くらい知っていたらどうでしょう。そのくらいまでいけば、英語は使えるようになるのではないのでしょうか。

計算も同じようなことがいえます。たし算、ひき算、かけ算、わり算、分数、小数だけでなく方程式も因数分解も微分積分も計算ですが、それが使いこなせるようになったら、その人は数学に強いといえます。小学生のうちにそこまで計算を強くしていたら、数学は抜群にできるようになるのではないかと思います。

公文式では中学、高校の数学がラクに習得できるような学力の養成を目標としています。つまり、目標を高校数学に定めて、そこに自習でスムーズに到達するように、幼児、小学校、中学校、高等学校、大学教養課程へと、教材は小さなステップで、段階的に作られています。その結果、幼児や小学生で始めても、学習するうちに高校数学が容易にできるようになっていくのです。

2012年 6月の学習日

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

本市場教室日□

横割教室日△

くもん出版刊「ことわざカード」より

えものをつかまえる能力にすぐれたたかは、ふだんはするどいつめをかくしている。すぐれた才能や実力をもっている人ほど、むやみにそれをひけらかさないというたとえ。
「きみがこんなに歌がうまいなんて、能あるたかはつめをかくすだね。今までぜんぜん知らなかったよ。」

のうあるたかは つめをかくす

今月のことわざ

様

【第15回】公文式学習法 10の効果

5、入試に強く、高校で特別よくできるようになる

公文式はもともと、「小学校の成績を上げる」といった目先だけの効果を目指したものではありません。

高校で勉強する内容を、なるべく早い時期に、確実にこなせることを目指しています。

かつて、教育関係者の間などで「七五三」という言葉がしばしば使われた時期がありました。

「小学校では7割、中学校では5割、高校ではなんと3割の生徒しか授業についていけない」という意味ですが、最近の現状ではもっと悪化しているとも言われています。

年々人気が高まっている中高一貫教育の有名私立校の多くは、中学の段階から、主要科目は一般公立校より少なくとも1学年分高いところを学習させているようです。

有名大学への進学率が高い秘密は、ここにあります。

公文式は、幼児や小学校の段階から、一人ひとりの能力と努力に応じて、学年よりも先へ進むことができます。

しかも、数学では方程式や因数分解、さらには積分・微分などをすらすら解ける「計算力」を、

英語、国語では「読解力」をつけることを主眼に学習できるように教材の内容を厳選しています。

つまり、その教科の学習を進めるうえで、どうしても欠くことのできない基盤となる力の養成に専念できるようにしているのです。だからこそ、わずか週2回教室へきて、ほかの日は1教科30分前後の自宅学習(宿題)をするだけで、きわめて効率的に高い学力がつくのです。但し、上記にもありますように宿題をしっかりとやる(やらせる)ことです。

この宿題は、その子のさらなる力をつけるためには、一番重要なことです。よく宿題を嫌がってやらせない保護者がいますが、これでは学力は伸びませんし成長もしません。与えられた宿題をキッチリとこなすことで、さらなる学力アップが出来るのです。幼児や小学生のうちから公文式の学習をずっと続けてきた子どもたちは、進学塾の詰めこみ教育を受けなくても有名な国公立や私立の中学校、高校に続々合格しています。

また、学校では、たとえば数学のテストの前日でも数学の勉強にはあまり時間をさく必要もなく、

ほかの科目の勉強に時間をあてたり、友達に親切に教えてやったりしながら、抜群の成績をおさめています。

英語、国語の学習では、文章を「読んでわかる力」がつくので、当然、ほかの教科へも好影響を与え、

入試にも強い、本物の学力を身につけることができるのです。

5、幼児でも日本語・英語の文章を読みこなし、方程式が解ける

幼児にとって「勉強」という概念(考え方)はありません。幼児は、自分が嫌なことはしたがりません。

本人がやりたいことをさせてあげるなら、それがどんなに知的に高度なことでも、幼児にとっては「お遊び」です。

公文式の教材は、0歳児でも楽しめる「読み聞かせ教材」から始まっています。

たとえば、各教科共通の8A~5A教材。絵を見ながら童謡を聞く、絵や漢字を見て判別する、絵を見ながら言葉や数を覚える、線を引くなどの練習をします。これらといっしょに使う教具(おもちゃ)には、『母と子のうたカード』『漢字・ことばカード』

『ぶんカード』『磁石すうじカード』『ジグソーパズル』などがあり、親子で楽しく遊びながら、言葉や数の能力を高めることが出来ます。

公文式の教材は、小さなステップで少しずつ上の段階へ進んでいきます。ですから、難しいと感じるようなことなど

ほとんどなく、多くの子どもが無理なく楽しく、文字や数の世界に親しみ、いつの間にか算数・数学や国語、英語の学習に入

っていけるのです。それに幼児には、年齢が低ければ低いほど、見たこと聞いたことを丸ごと覚えるという能力があります。

おとなが必死に語呂合わせなどをしてもなかなか覚えられないことを、幼児は無理なくそっくりそのまま

記憶できる能力を持っているのです。

また、くり返しによって、難なく定着させることもできます。

一度学習習慣がついて、ちよどの学習教材を与え続けることができれば、

やがて小学校相当の内容をマスターし、中学校相当の国語や英語の長文を読みこなしたり、

方程式を解くようになるのも、それほど難しいことではないのです。

このような幼児の能力の高さを研究することによって、公文式は幼児の能力を飛躍的に高めています。

たとえば2011年3月末現在、小学校入学前の幼児が、数学では615人が中2程度の方程式以上の問題を解き、

国語では774人が中1程度以上の文章を読みこなし、英語では96人が中3程度以上の英文を読み書きしています。

そして、これらの数字は年々増え続けています。

幼児期から公文式を始めた子どもは、知能を飛躍的に高め、読み、書き、計算、英語などで、抜群の能力を身につけられる

のです。